

子どもたちがコートで走り回っています。目を輝かせ、額からは汗が落ちています。大きな声を出し、体育館一杯に歓声が響きます。こんな様子からはミニバスを楽しんでいる子どもたちの姿が想像されます。

コーチとして子どもたちのそばに立ち、一緒に大声を出していた私は、子どもたちはミニバスが好きであると信じておりました。しかし、ある時、これは体育館の中だけ、練習中だけ、指導者の下管理されている時だけではないのかという疑問が心の中から沸き起こってきたことがありました。

そう思って子どもたちの様子を観察してくると、今まで気づかなかったことが分かるようになったのです。私は小学校の教員をしていたので、学校での子どもたちのことは大体わかります。

一番の発見は、休み時間など子どもの自由時間にバスケットボールで遊んでいないということでした。これはどういうことでしょうか。もうあきたから？ 他にもっと楽しい遊びがあるから？ (高学年で忙しいからという理由は除きます。)

うーん、コーチとしては自由時間にこそ、自分達の好きなバスケをやってほしいのに！！

しかし、このことを自分を振り返るきっかけにすることもできます。果たして自分は子どもたちに楽しいバスケを教えてきたのか？ バスケの遊び方を知らせてきたのか？

以前、何度かアメリカを旅したことがあります。その度に感動することがあります。それは、どこでも、だれでも、いつでもバスケを楽しんでいるということです。ちょっとした場所にはバスケのリングが立っています。そこでは若者たちがバスケに興じています。大体が、ハーフコートの3対3～5対5です。いわゆるスリーオンスリーなどです。夜遅い時間でもやっています。誰からも管理されないで自由に楽しんでいます。

もし、子どもたちがミニバスが大好きなら学校の休み時間にも大いにバスケを楽しんでほしいものです。上手・下手を問わず、スポ少に入っているいないにかかわらず、みんなで楽しんでほしいですね。特にミニバスの子供たちには他の子も誘ってバスケのよさを友達にも伝え、バスケの輪を広げてほしいと思います。

でも、現実はと言うと・・・校庭のリングにはネットがない、破れたのがぶら下がっている。また、せっかくリングはあるのにコートの線がないなど、子どもたちのやる気を起こさせる仕組みができていないことが多いのではないのでしょうか。

ミニバスの指導者の方へのお願いは、スリーオンスリーのようなハーフコートを使って自分たちで楽しめるゲーム方法を教えてほしいと思います。また、練習時間前に来た子どもたちには自分たちでチーム編成をし、自由時間としてバスケを楽しませてはどうでしょうか。それは「子どもが自分で考え工夫するバスケ」につながっていくことになるでしょう。

「バスケが好きな指導者」について今回は書いてみたいと思います。